



教育関係者・事業者部門
《農林漁業者等》

消費・安全局長賞

はかた一番どり推進協議会

(福岡県) 活動期間 9年

次世代を担う小学生を中心に、学校やイベント会場等で生き物の命と人の食物とのつながりや命を食べることの大切さを学ぶ食育講座

生産者だから伝えられる「命の尊さ」

生産者の立場から「食・農業の大切さ」や「命のつながり」を次世代を担う子供たちに伝える活動を行っています。一般参加者から高校生、さらに小学校高学年から低学年、幼児向けと、幅広い年齢層を参加対象に展開し、農場見学や料理教室を通じて「考える」「知る」「体験する」「食べる」の各コンテンツを設定しています。



小学生を対象とした解体実演

伝統的な鶏肉食文化の伝承

生き物と食に関する正しい知識、働く人がいるから食べられるという食と社会の調和を理解してもらい、地産地消へつなげていきます。また、地元食材や伝統的な鶏料理「水炊き」や「がめ煮」などの食文化を通じた学びも深め、流通・消費の流れを学べるようになっていきます。



「はかた一番どり」について

ニワトリが育む食の心

卵の孵化の様子を観察しヒヨコに触れることで命の尊さを体感する「体験する」講座、鶏肉を解体し食べるまでの工程を体験する「食べる」講座、イラストやクイズで楽しく学ぶ「知る」講座など、参加対象に合わせ、興味ある内容を選択しながら講座を組み立てています。



孵化したばかりのヒヨコ



出荷当日のニワトリ



「ニワトリを通して伝えられること」を土台に生き物の尊さ、地域の伝統や文化など多くのことを、子供たちと一緒に考え、体験したりして、育まれていく心を大切に活動しています。

この度の私共の取組みを評価して頂いたことを励みに、より地域に根ざした活動を推進して参ります。



はかた一番どり推進協議会
会長 古賀 光幸